

○大場委員 私からは、今定例会の議案となっております当せん金付証票の発売、すなわち宝くじにつきまして何問かお聞きさせていただきたいと思います。

十月の決算特別委員会の分科会でもご質問させていただきましたが、宝くじは、都民の皆様にとりまして、誰もが楽しめる身近な娯楽の一つであります。と同時に、地方自治体にとりましては大変重要な財源の一つとなっております。

近年、その貴重な財源であります宝くじの売り上げが低迷しているとの報道を頻繁に耳にいたします。局の担当の方に数字を確認させていただきましたところ、東京都における宝くじの売上額は、平成二十七年度より三年連続で減少しており、平成二十九年度は一千七十三億円とのことでした。

さかのぼりまして平成二十年度の売上額はどうだったのかと申しますと、千五百四十四億円だったとのことで、この十年間で売上額が何と三割も減少していることとなります。このトレンドのままでは、売り上げ一千億円割れが時間の問題ともいわれかねない状況にございます。

今回ご提案いただいている平成三十一年度の宝くじの計画額、これは発売限度額とのことですが、来年度の東京都の財政状況見通しを示す重要な指標になるともいえると考えます。

そこで、東京都における来年度の宝くじの発売計画額と、その見込んだ根拠につきましてお尋ねいたします。

○山田主計部長 平成三十一年度の宝くじ発売計画額では、過去の実績や売り上げ動向、今後の施策などを踏まえまして約一千四百十九億円の発売を見込み、収益見込み額としては約六百十七億円を計上しております。これは、昨年度に比べまして、発売計画ベースでは約百二億円の減、収益見込みベースでは約四十億円の減でございます。

ジャンボ宝くじの売り上げが低迷する一方で、新たに宝くじ公式サイトでのインターネット販売の実績の伸びなどを見込みまして、全国計画額を反映した結果によりまして、この数字を出しているものでございます。

○大場委員 わかりました。

宝くじは、地方自治体にとりましては、公園や河川の整備、また学校の校舎改築など日常必要な公共事業を中心に、住民サービスの維持向上に向けた財源の一つとなっております。

さらに、東京都におきましては、二〇一九年のラグビーワールドカップ、そして二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックが連続して開催されますので、宝くじは、世界中の人々が注目する二つのスポーツイベントの重要な財源の一つともなるわけでございます。この

二つの大会開催のための財政計画に織り込まれた宝くじ収入につきましては、その見込みと申しますか、まあ、当てが外れてしまえば大会運営に支障を来すことになりかねません。

これまで、当初見込んだとおりの宝くじの売り上げが確保されてきているのか、また、今後の見通しは立っているのか、このタイミングで議会として確認しておくことが必要と考えます。

そこで、東京二〇二〇大会及びラグビーワールドカップ二〇一九協賛くじの、これまでの実績と来年度の見込みについてお伺いいたします。

○山田主計部長 東京二〇二〇大会の協賛くじにつきましては、平成二十八、二十九年度合計で、当初計画どおり、発売額百四十億円に対しまして収益額は五十六億円でございます。同様に、ラグビーワールドカップ協賛くじにつきましては、平成二十八、二十九年度合計で、発売額百五十億円に対しまして収益額は六十億円でございます。

これらの収益は、東京都を初めとする関係自治体において、大会に必要な経費の財源として活用されております。

また、平成三十一年度におきましては、東京二〇二〇大会の協賛くじで、発売額二百八十億円に対しまして百十二億円の収益を見込み、ラグビーワールドカップの協賛くじでは、発売額五十億円に対しまして二十億円の収益を見込んでいるところでございます。

○大場委員 ただいまの山田部長のご答弁で、実績ベースで計画どおり進んでいることの確認がとれました。

さて、冒頭申し上げましたとおり、全国的に宝くじの売り上げ収益は、ほぼ右肩下がりの状況であります。

先日の我が党の代表質問でも指摘させていただきましたが、オリンピック・パラリンピック開催に対する都の財政負担に都民から厳しい目が向けられていることは確かであります。このことは、支出ばかりでなく財源確保に対しても同様であると私どもは捉まえております。数字合わせだけの甘い見通しのもと財源計画が立てられていないか、幾ばくかの不安を覚えているのは私だけではありません。

先ほど、それぞれの大会に関する来年度の宝くじ収入見通しについてご答弁をいただきましたが、どのような根拠のもとそのように見込まれているのか、また、どのような手だてでその売り上げを確保する考えなのかを確認することも必要でございます。

そこで、ラグビーワールドカップ二〇一九そして東京二〇二〇大会開催のための財源を確実に確保するため、今後どのように協賛くじの販売促進に取り組んでいくのかお伺いいたします。

○山田主計部長 まず、大会開催年となりますラグビーワールドカップ協賛くじでは、大会機運の盛り上がりをつかえ、大会組織委員会とも連携しまして、大会公式マークやマスコット

の宝くじ券面での活用に加えまして、テレビCMやポスター等の広報宣伝媒体を活用した積極的なPRを実施していきたいと思っております。

また、東京二〇二〇大会協賛くじにおきましても、これまでのオリンピック、パラリンピックを活用しましたテレビCMやポスターの制作に加え、開催一年前のプレイベント期間に合わせての発売など、より一層、大会協賛くじならではの特色ある販売促進策を進め、大会機運の醸成と収益確保に努めていきたいと思っております。

○大場委員 ラグビーワールドカップとオリンピック・パラリンピックが二年続けて同一都市で開催されるのは、東京が初めてになります。世界的な二つのビッグイベントの招致を成功させ、開催に向けた準備がいよいよ本格化を迎える中で、その足元を支える財源に狂いが生じてはなりません。

繰り返しになりますが、宝くじは自治体運営の重要な財源でございます。東京都にとりましては、来年のラグビーワールドカップ、再来年のオリンピック・パラリンピックの成功を支える貴重な財源ともなるわけでございますから、その売り上げ向上に全力で取り組まれることを当局に強く要望いたしまして、私の発言を終わります。